



目 次

1 平成 25 年度農業生産・気象の概況

- | | |
|-----|---|
| (1) | 1 |
| (2) | 5 |

2 普及活動の主な成果

- | | |
|------|----|
| (1) | 6 |
| (2) | 7 |
| (3) | 8 |
| (4) | 9 |
| (5) | 10 |
| (6) | 11 |
| (7) | 12 |
| (8) | 13 |
| (9) | 14 |
| (10) | 15 |
| (11) | 17 |

3 参考資料

- | | |
|-----|----|
| (1) | 19 |
| (2) | 20 |
| (3) | 22 |
| (4) | 24 |
| (5) | 25 |

はじめに

平成 25 年は、梅雨明け後 7～8 月の記録的な高温・少雨、8 月末の台風に伴う豪雨、10 月の台風襲来に伴う強風等の気象変動が大きな一年でした。

また、農畜産物価格はアベノミクスで騒がれる経済情勢においても上がる傾向はなく、資材価格高止まりの中、今後の農業経営に対する大きな制約要素となっています。

飯塚地域は、福岡・北九州都市圏に隣接し、豊かな自然に恵まれ、古くからの果樹団地、良質米、野菜、花き、畜産等の多様な農業生産が営まれています。しかし、他の地域と同様に農家数の減少と高齢化は進み、担い手の確保、個別農家や営農組織の規模拡大及び経営力の強化が急務となっています。一方で、新規就農者や担い手の法人化は少しずつ増え、農産物の加工等の 6 次産業化に取り組む農家や組織も出てくるようになり、これらの農産物や加工品を直売所に出荷するなど多様な販売ルートを持つようになっています。

このような情勢の中、当普及指導センターでは、「県農業・農村振興基本計画」に沿って、平成 25 年度はさらに地域農業の担い手確保やブランド産地の構築のための普及活動を強化し、「めざせ！！元気な担い手 もうかる農業」をスローガンとして、地域農業を担う「経営体の育成」と県育成品種のブランド化も視野に入れた「安全安心な農畜産物の供給と交流の促進」という 2 つの重点事項を設定して、職員一丸となり地域農業の振興に取り組みました。

この成果集は、農家や関係機関等の方々に広く普及指導センターの活動を理解していただくために、平成 25 年度の主な活動成果を取りまとめたもので、注目の新品種・新技術の紹介、主な表彰等も掲載しています。地域農業の振興と農家の方々の経営改善の一助になれば幸いに存じます。

平成 26 年 3 月

飯塚農林事務所飯塚普及指導センター
センター長 尾形武文

1 平成 25 年度農業生産・気象の概況

(1) 農業生産の概況

<普通作>

○高温の影響で品質不良であった水稲

4 20

6

○品質が良好だった麦(平成 24 年播種)

11

12

11

12

3

3

2 3

○収量が伸び悩んだ大豆

7 8

7 16 19

25

5

8

8

12

9

<野菜>

○大苗作りをめざし、早期作型の作付が増加したイチゴ

9mm
10
11

○定植時の大雨により年内出荷量が減少したブロッコリー

8 8
8 9 9 10
10 11 10
10 11

○生育・収量が回復したアスパラガス

1 1
10

<花き>

○きびしい気象条件で苦労が多かったが、防除の徹底で頑張ったキク

5 7 7 8

553

(101)

○夏季の高温に悩まされた秋出しトルコギキョウ、生産が拡大している冬春出しトルコギキョウ

7 8 10 11

2

○共販出荷量が伸びたシンテッポウユリ

15

206 (120)

○出荷量は増えたが風と害虫に苦しんだケイトウ

3 19

412 121%

<果樹>

○面積は増加したが出荷量は前年並みとなったイチジク

3 4 9

8

8 4 9 1

7.3ha

97

99

○前年並みを維持したブドウ

3

4

5

99

102

○小玉果や樹上軟果の発生が多く、収量が減少したカキ

3

3

10

3 4

9

84

119

○着果良好で食味良好だったナシ

2

3

9

84

105

<畜産>

○和牛繁殖

656
24

670

○酪農

48
11,505

2,023

2,029

11,395

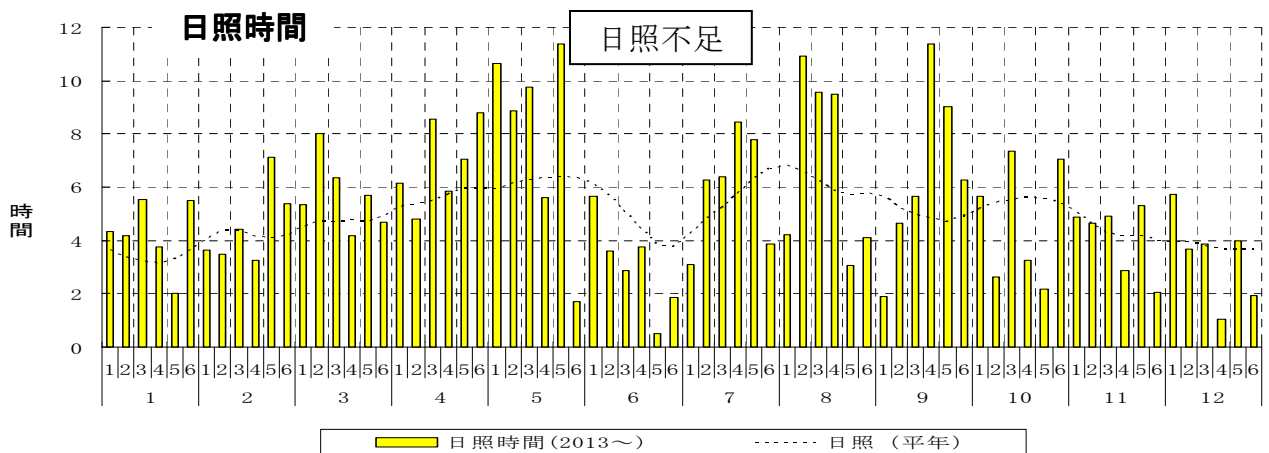
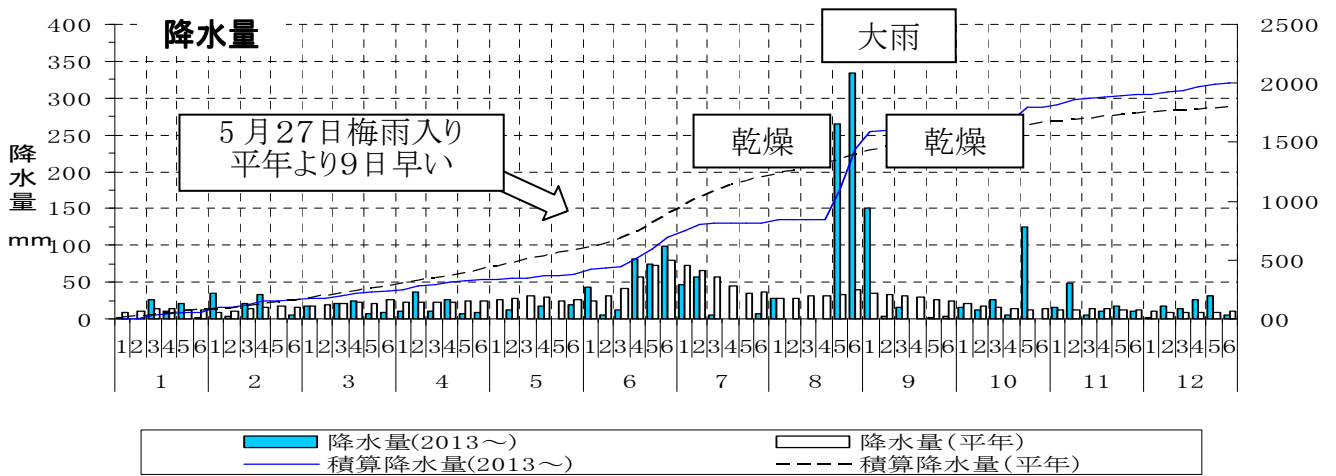
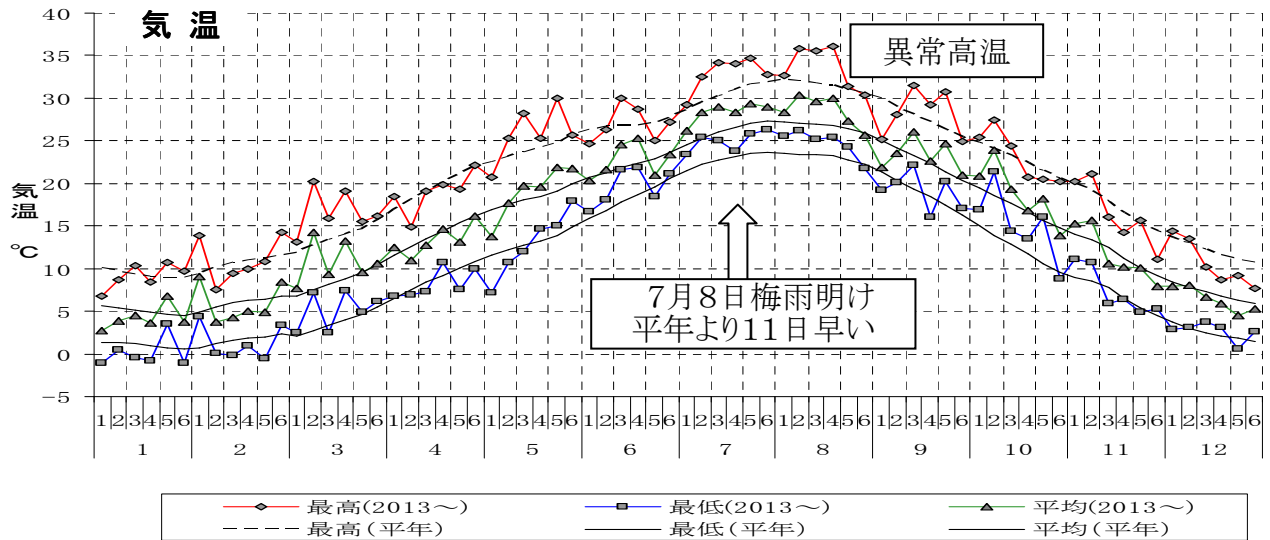
<気象災害>

4
8 3 7 8 15 8 30 31

4 14		
7 8		
8 30 31	15	
10 8 9	24	
10 16	26	

(2) 気象概況

平成 25 年の気温は、平年より1～4月まで低く、5～11 月まで高い傾向で、12 月は低くなりました。特に、梅雨明け後は異常高温となりました。降水量は平年より 1 月は少なく、2 月は多くなりました。その後も 7 月まで少ない傾向でしたが、8 月は下旬の大雨の影響で極端に多くなりました。10 月以降は多い傾向です。



2 普及活動の主な成果

(1) 園芸農業振興による嘉穂農業の活性化

○背景

○対象概況

39 34ha

○活動内容

48
8

()

○成果

80a 108a 65a 100a 110a 28

()

170a

23a



写真1 園芸推進品目(ケイトウ)



写真2 園芸振興のための個別経営相談会

○今後の取り組み

(2)元気な担い手を確保して直鞍農産物の販売力アップ！！

～直鞍農産物の生産拡大によるモデル直売組織の強化～

○背景

直鞍地域の農産物販売力を向上させるためには、直売所やインショップの販売拡大は重要な位置づけとなっています。(農)ドリームホープ若宮をはじめとする直鞍地域の直売組織は、地域農業の活性化に貢献してきました。しかし、生産者の高齢化等による生産低下で、野菜を中心とした農産物の生産拡大が課題となっています。普及指導センターでは、直鞍地域の直売所をモデルと位置づけ、重点的に支援を行ってきました。

○対象概況

農事組合法人ドリームホープ若宮 出荷者数 364 人
四季菜館

写真1 営農講座現地検討会の様子

写真2 ミニトマトの栽培様子

(3)新規就農者の確保と定着支援

○背景

24

1

○対象概況

○活動内容

1 3
(1)

写真1 営農基礎講座「農業ビジョンを語ろう」

○成果

21 25



図1 就農支援プログラム概要

表1 新規就農者等確保の状況

H26年2月末日現在（単位:人）

()

～新たな担い手の育成と既存の担い手の経営体質強化～

地域農業の担い手の減少が続くなか、集落営農組織は農地の維持管理や環境の保全だけではなく、集落機能の維持等の大きな役割があり、さらには組織の継続性を支える、水稲、麦、大豆の生産性向上と併せて経営体質の強化はとりわけ大きな課題です。また個別大規模農家についても、同様に生産性の向上や経営の安定が強く求められています。

個別大規模農家 61 戸(水田面積概ね 10ha 以上の農家)

集落営農組織 53 組織(うち 農事組合法人 10、特定農業団体に準ずる組織 13)

平成 23 年度から、飯塚地域担い手・産地育成総合支援協議会担い手育成部会の活動計画に基づき、普及センターは、県外の先進経営体の講演や関連事業の説明などの経営改善・法人化に向けた研修会の開催により、法人化を推進するとともに、経営改善のための新規品目(新規需要米、園芸作物等)の導入や税務会計への対応について支援を行いました。

さらに、法人化意向組織や農家に対し、水田農業経営力強化事業を活用した経営支援や県農業経営アドバイザーの派遣を行い、経営発展支援や法人化支援を行いました。

また、新たな集落営農組織の設立については、関係機関の広報誌やチラシにより、集落営農組織の地域農業に果たす役割や必要性和併せて、普及センターの組織設立支援の周知を図り、支援要請のあった組織には、講習会、座談会を実施しました。

平成 23～25 年度の 3 か年間に、新たに個別大規模農家が 6 法人、集落営農組織が 2 法人できました。



水田農業の担い手育成については、今後も普及計画上の重要な課題と位置づけ、集落営農組織および個別大規模農家への支援を継続していきます。

(5) 水稻いもち病に対応した減農薬・減化学肥料栽培体系の確立

～育苗段階の徹底防除でいもち病を封じ込める～

○背景

平成 24 年度は、JAふくおか嘉穂の水稻育苗センターにおいて苗いもち病が多発しました。また、広く使用されていたQoI剤(箱施薬剤)の耐性菌の発生もあり本田でのいもち病も多発しました。一方、JAふくおか嘉穂では、減農薬減化学肥料認証米が多く生産されています。そのため、育苗段階においても、使用農薬が制限されており、また、本田へのいもち病の持込を防ぐためにも、減農薬を達成しながら、健全な苗生産を行うことが強く必要とされていました。

○対象概況

嘉麻市碓井育苗センター、飯塚市穂波共同育苗施設、JAふくおか嘉穂 嘉穂育苗センター
合計生産苗箱数 111,400 枚

○活動内容

平成 25 年度は苗いもち病対策を徹底する事で、本田での葉いもち・穂いもち病への感染を防止するため、生物農薬、抗生物質といった化学農薬成分のカウントは行わない薬剤を活用し、認証米の農薬成分に影響がないよう処理方法を組み立てました。

- ①従来の種子温湯消毒に加えエコホープ DJ(生物農薬)の使用による保菌種子の殺菌対策を徹底しました。
- ②田植え後初期の葉いもち病抑制の効果を高めるため、箱施薬剤(ツインターボフェルテラ箱粒剤)を基準量を確実に投入できるよう苗箱播種同時処理を行いました。
- ③カスミン液剤(抗生物質)を覆土前に散布する事により、保菌種子からの発病を抑制しつつ外部からの 2 次感染を抑制しました。薬液散布は、専用のカスミン液剤散布装置を設置し、泡散布を行いました。(※泡散布とは→覆土前にカスミン液剤を泡状に塗布し、薬剤の処理層をつくることで、薬液を稲体に浸透させ、いもち病の発病を抑えることができます。)

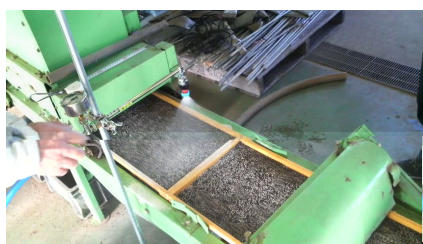


写真1 カスミン液剤の泡処理

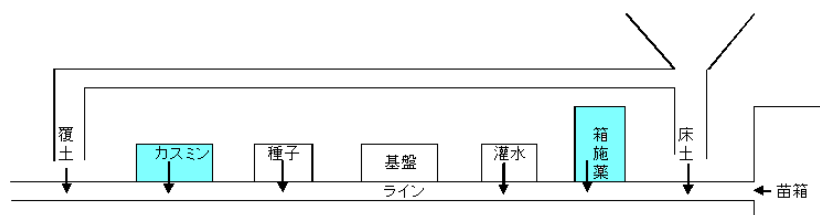


図1 処理工程

○成果

平成 25 年度は、育苗センターにおける苗いもち病の発生はなく、安定生産ができました。

○今後の取り組み

育苗センターにおいては安定生産体制が構築できましたが、個人育苗においては、泡処理等が実際は難しい状況です。今後は化学農薬(ベンレート水和剤)の活用等も含めさらに、いもち病対策に徹底した苗生産技術の普及を推進します。

(6)イチゴの収量向上による産地強化

～ 親株確保と健苗育成による早期作型の推進 ～

○背景

当センター管内のイチゴの作型は、H22 年度より年内の単価が高い早期作型の作付割合の増加に取り組みましたが、親株本数が少なく、採苗が遅れる傾向であったためにクラウン径 8mm 未満と早期作型には充実不足の苗となっていました。そのため早期作型を推進するためには、親株本数の増加と適期採苗を行う苗作りが課題でした。

○対象概況

JA直鞍イチゴ部会 28 名 6.7ha

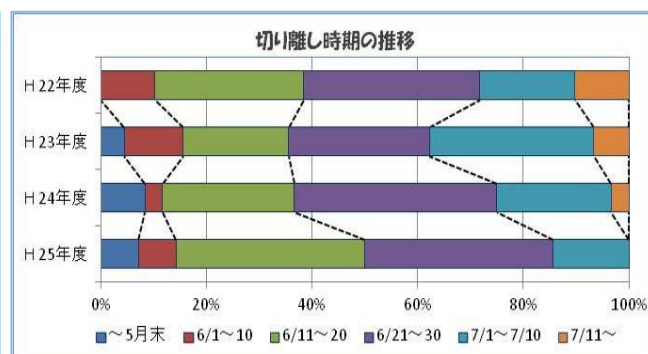
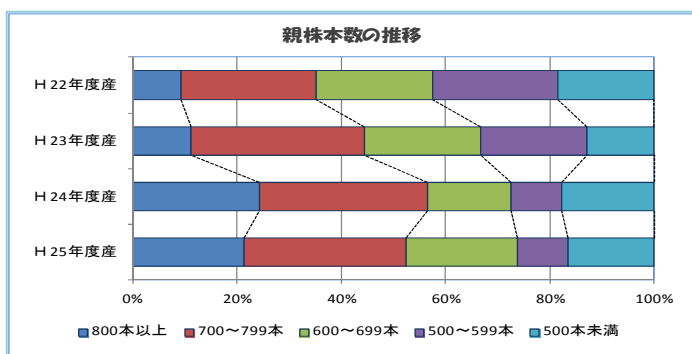
JAふくおか嘉穂イチゴ部会 49 名 8.2ha

○活動内容

JAと協議し、改善目標を①年内収量向上のため早期作型(Ⅲ・Ⅳ型)の割合を 60%、②総収量目標 4.0t/10a と設定しました。そして、早期作型に適した苗作りを徹底させるため、①親株本数 800 本/10a、②切り離し(採苗)を 6 月 20 日までとし、親株本数確保や切り離し時期を含んだ栽培管理を徹底しました。また、展示ほを設置し、調査結果を基に研修会等で説明したり、栽培技術向上のため育苗講習会や現地研修会を開催しました。

○成果

①親株本数 800 本/10a を確保し、②6 月 20 日までに切り離した生産者は増加しており、H25 年度に早期作型に適した苗(クラウン径 8mm 以上)を育成できた生産者は 70%以上となりました。早期作型の導入割合も H22 年度の 38%から 52%まで増加しました。また、4.0t/10a 以上の生産者は H22 年度7名/82 名から H24 年度 14 名/75 名と増加しました。



○今後の取り組み

さらなる良苗作りを支援し、定植後の株作りや2 番果房の連続性を高め、また、厳寒期の草勢を維持するための管理技術の向上により、目標の総収量 4t/10aを目指します。

(7) トルコギキョウの土壌病害および雑草対策

～土壌消毒の徹底+畝立て後陽熱処理の組み合わせで生産性向上へ！～

○背景

管内はトルコギキョウの生産が盛んな地域で、4つの生産者組織があります。そのなかの一組織であるJA直鞍若宮花倶楽部(6戸)では連作による立枯病や青枯病などの土壌病害の発生が、そして管内全体の生産者においては夏季高温下でのハウス内除草作業の負担が生産上の大きな課題となっていました。

○対象概況

管内のトルコギキョウ生産者 18戸 488a

○活動内容

立枯病や青枯病の原因である土壌病害の徹底防除を図るため、土壌消毒展示ほの設置や現地検討会の開催と併せて土壌消毒機の導入を推進しました。また、除草作業の負担軽減のため畝立て後陽熱処理の展示ほを設置し、夏季高温下でのハウス蒸し込みによる殺草効果を検証したところ、殺草効果も十分あることが実証されました。そこで、土壌消毒の徹底および畝立て後陽熱処理の組み合わせによる生産改善を推進しました。

○成果

JA直鞍若宮花倶楽部では土壌消毒機を新たに導入し土壌消毒を徹底したところ、土壌病害の発生面積が昨年に比べて7割程度減少しました。また、土壌消毒後に畝立て後陽熱処理を組み合わせることにより、雑草の発生が大幅に減少し、除草作業の大きな軽減につながりました。今年管内全域のトルコギキョウ生産者において畝立て後に陽熱処理を実施した生産者は4戸(H24年度)から7戸(H25年度)と増加しました。



写真1 畝立て後陽熱処理の様子



写真2 陽熱処理による殺草効果
(左:無処理区 右:陽熱処理で雑草の発生なし)

○今後の取り組み

普及指導センターでは、引き続き土壌消毒機を用いた病害対策の徹底と畝立て後陽熱処理を組み合わせた土壌消毒体系を普及し、トルコギキョウの安定生産を支援していきます。

(8)イチジク導入による集落営農組織の経営安定化支援

～効率的な集団指導により早期収量確保が実現～

○背景

平成 24 年に嘉麻市の樋渡営農組合が複合経営による収益確保のために、従来から栽培している米・麦・飼料米に加え、イチジク「とよみつひめ」の栽培を開始しました。しかし、管内の集落営農組織でイチジクを導入したのは初めてであり、栽培経験者がいなかったために、組合員の技術習得や、組織内の役割分担の明確化等が課題となっていました。

○対象概況

樋渡営農組合 組合員数 8 名、イチジク栽培面積 12a

○活動内容

JA ふくおか嘉穂と連携して、樋渡営農組合を対象に指導活動を強化し、1 年目はほ場の準備、苗の植え付け、芽かき、主枝の誘引、せん定について、2 年目は収穫について、現地で実際に作業をしながら、組合員の知識と技術の向上を目指しました。

いちじく部会の栽培講習会や先進地視察研修会を通して、果樹棚の種類や具体的な管理方法等の技術習得について支援しました。

また、組合内にイチジク部門担当者を配置するようアドバイスし、その担当者と連絡を取り合うことにより、円滑な支援をすることができました。

さらに、JAふくおか嘉穂、管内外の先進農家を紹介し、いつでも情報収集ができるようなネットワークづくりを進めました。

○成果

県単事業の「活力ある高収益型園芸産地育成事業」を活用して果樹棚を導入し、植え付け 2 年目の目標収量が 1.5t/10a のところ、約 2t/10a の出荷となりました。イチジクの収益が加わったことで、集落営農組織の経営安定に向けて一歩を踏み出す支援が出来ました。



写真1 せん定検討会



写真2 初出荷されたイチジク「とよみつひめ」

○今後の取り組み

イチジクの規模拡大や他の園芸品目導入の意向もあるため、経営支援を行うとともに、今後もイチジクの安定生産ができるよう技術指導を継続していきます。

～乳用後継牛の効率的確保を目指して～

昨年度来、「性選別精液」による乳用後継牛の効率的確保技術を普及推進しています。

90%の確率で雌が生産される性選別精液は、通常的人工授精用精液と比較して受胎率が劣ると言われており、受胎率の向上が課題となっています。

そのために、授精に際して「牛深部注入器(図 1)」を利用することで受胎率の向上を図ることが期待されています。

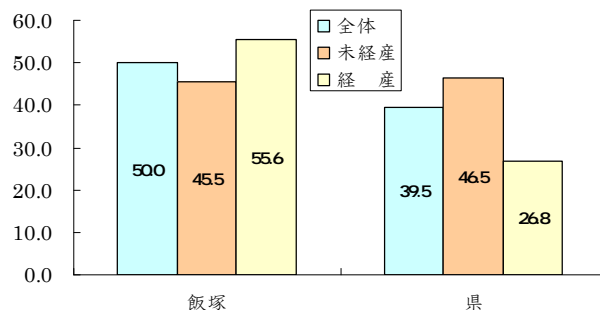
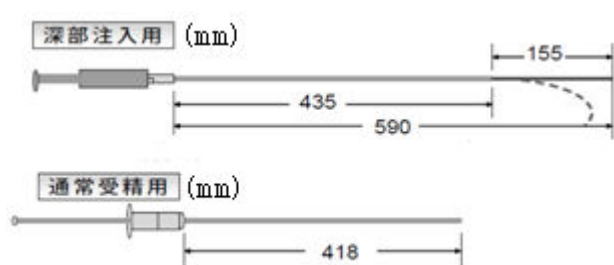
ふくおか県酪協飯塚支所管内酪農家 44 戸

授精業務に携わる管内診療獣医師および人工授精師の協力が不可欠なため、取り組みの趣旨を説明し、「牛深部注入器」を提供しました。ふくおか県酪協飯塚支所および酪農家に対しては「チラシ」を作成し、取り組みへの参加を促しました。また、新技術導入広域推進事業に参加し、県内における同様の取り組みの情報収集と情報還元を行いました。

今年度性選別精液を使用し、「牛深部注入器」を活用した酪農家戸数は 44 戸のうち 21 戸と普及拡大しました。

図 2 には平成 24 年度に「牛深部注入器」を使用した際の授精結果を示しました。受胎率は、管内は実施頭数 20 頭で全体で 50%、県域では実施頭数 200 頭で、全体で 40%、未経産牛 46%、経産牛 27%となりました。

通常精液での受胎率は、45%程度と言われており、遜色のない結果です。また、産子は 94%が雌の子牛であり、効率的な後継牛生産が可能になりました。



H24

個々の酪農家の経営方針に適した人工授精技術の選択に際し、活用していく予定です。

(10)注目の新品种・新技術の紹介

(1)「大豆作における難防除雑草の対策技術について」

○要 約

近年、帰化アサガオやヒロハフウリンホオズキ、ホソアオゲイトウといった難防除雑草の発生により大豆の収量、品質が低下しています。これらの難防除雑草は出芽深度が深く土壌処理剤の効果が劣るため、生育期除草と組み合わせた体系処理が必要となります。普及指導センターでは、これら難防除雑草の対策技術として、土壌処理剤と併せて、大豆 5 葉期頃に、吊り下げノズルを用いた畝間除草の実証試験を行いました。その結果、ヒロハフウリンホオズキやホソアオゲイトウに対する除草効果が認められました。



写真1 ホソアオゲイトウ

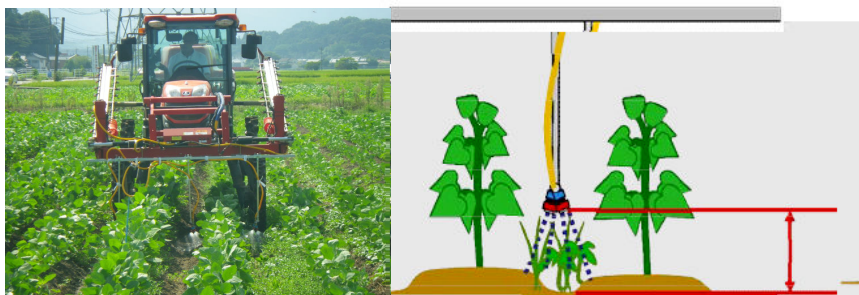


写真2 吊り下げノズルによる除草風景およびイメージ図

○今後の取り組み

大豆作付農家・営農組織に対し、JAと連携し当技術の普及拡大を図ります。

(2)「オクラトンネル栽培導入による早期作型推進」

○要 約

オクラのトンネル栽培は、トンネル被覆を4月上旬～5月上旬に行うことで2～3週間の早期出荷が可能となる作型です。メリットは、高値販売と増収であり、今年度はJA ふうおか嘉穂オクラ部会(41戸)の8戸が取り組みました。この作型導入により、売上額は120千円/10a、収量は120kg/10a程度増加し、総売上額は107%、総収量は105%となり、トンネル栽培の優位性が確認されました。



写真1 トンネル栽培の様子



写真2 オクラの栽培風景

○今後の取り組み

今後はトンネルの設置方法(強風対策)を検討し、より安定した栽培技術となるよう取組み支援を行うとともに、さらにまたトンネル栽培の推進によるオクラの産地振興を図ります。

(3)「フェロモントラップを活用したカキのフジコナカイガラムシ防除適期の指導」

○要 約

カキ栽培では、難防除害虫であるフジコナカイガラムシの発生が増加し、果実の品質低下に悩まされています。この害虫は6月下旬以降、薬剤のかかり難いカキのへた部へ移動することと、成虫への有効な薬剤がないため、第1世代幼虫が多数生息している時期の防除が重要です。

そこで、今年度飯塚地域では初めて、フェロモントラップ(写真1)を利用し、雄成虫の発生ピークを調査しました(図1)。その結果を基に、フジコナカイガラムシ若齢幼虫の発生時期を予測することが可能となり、防除適期の情報を農家へ提供できました。



写真1 トラップの設置状況と雄成虫

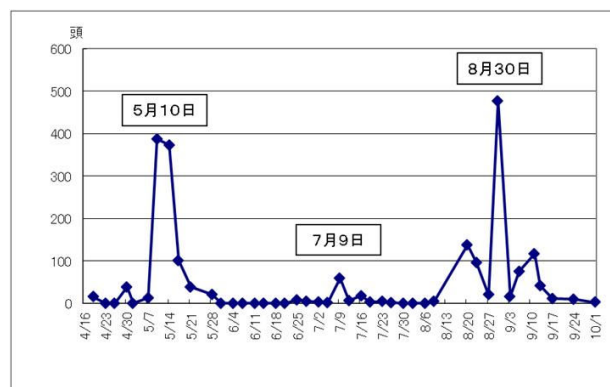


図1 フジコナカイガラムシ雄成虫1日当誘殺数

○今後の取り組み

発生時期の予測はできたため、次年度以降もトラップを活用して、発生状況の把握による的確な防除情報を提供する予定です。

(4)「WCS新品種の作付拡大に向けて」

○要 約

近年、従来主流の穂重型品種と大きく異なり「籾が少ない」ことを特徴とするWCS新品種「たちすずか」が開発されました。当品種は、籾に向かう栄養分が茎葉に蓄えられ、家畜にとって利用しやすいという利点を併せ持っています。

そこで、宮若、嘉麻両市にて展示栽培し、その特性を調査しました。その結果、従来主流の専用品種「タチアオバ」と比較して「たちすずか」の収量性は遜色なく、発酵品質、家畜の嗜好性も良好でした。

○今後の取り組み

普及指導センターでは、耕種・畜産両農家に対して、展示ほによる現地実証を踏まえた情報提供を行うことで、次年度以降の「たちすずか」の作付拡大を支援していく予定です。



写真1 「たちすずか」展示ほ

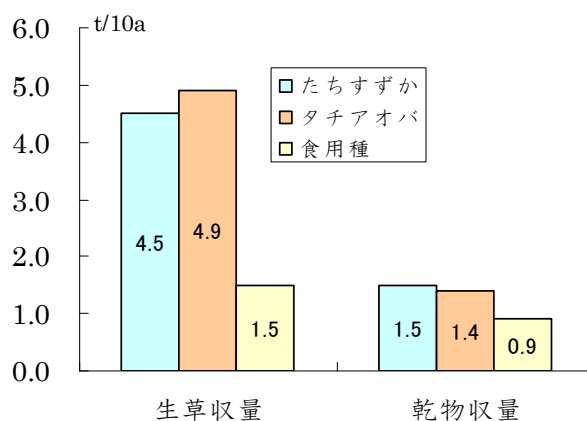





図1 収量性の比較

(11)各種表彰(国・県)



第19回福岡県農林水産まつり

新鮮でおいしい農林水産物供給や県・地域の農業に貢献

部門	農産	畜産	地域集団
区分	名誉賞	名誉賞	優秀賞
受賞者氏名	鞍手町 <small>えんどう のりお</small> 遠藤 典男 氏	宮若市 <small>あらまき ひろゆき</small> 荒牧 博幸 氏	飯塚市 <small>よこやま たけき</small> 横山 武城 氏
			
業績の概要	本県最大級の個別大規模経営を確立し、最大の課題である後継者の育成を実現されて、多くの役職を務めるなど、県・地域の農業振興に貢献されている。	安全安心な卵づくりに尽力されるほか、6次産業化の取組や、地域特産物PR団体の設立に係るなど地域農業振興へ貢献されている。	飯塚市認定農業者協議会で6年間会長を務められ、会員の技術・経営の向上に尽力され、また、JA役員など要職も歴任し、地域農業の振興と発展に貢献されている。



第8回ふくおか良質たい肥コンクール

良質たい肥生産で地域農業・家庭菜園に貢献

県内の畜産農家の良質たい肥を集めて、2年ごとに開催されている「ふくおか良質たい肥コンクール」において、県知事賞(大家畜部門の最優秀賞)に飯塚市の(農)穂坂牧場(代表者 穂坂貴彦氏)が優秀賞に嘉麻市の大田和弘氏(おおかずひろ)が受賞されました。

(農)穂坂牧場は第7回のコンクールでも最優秀賞に輝いており、連続受賞の快挙となりました。大田氏も過去のコンクールで何度も上位入賞されており、改めて当管内畜産農家の堆肥生産技術の高さを示す結果となりました。

穂坂牧場は「ネオノビール」で、大田氏は「ニューガーデンパワー」で販売しています。



大田氏(左)と穂坂氏(右)

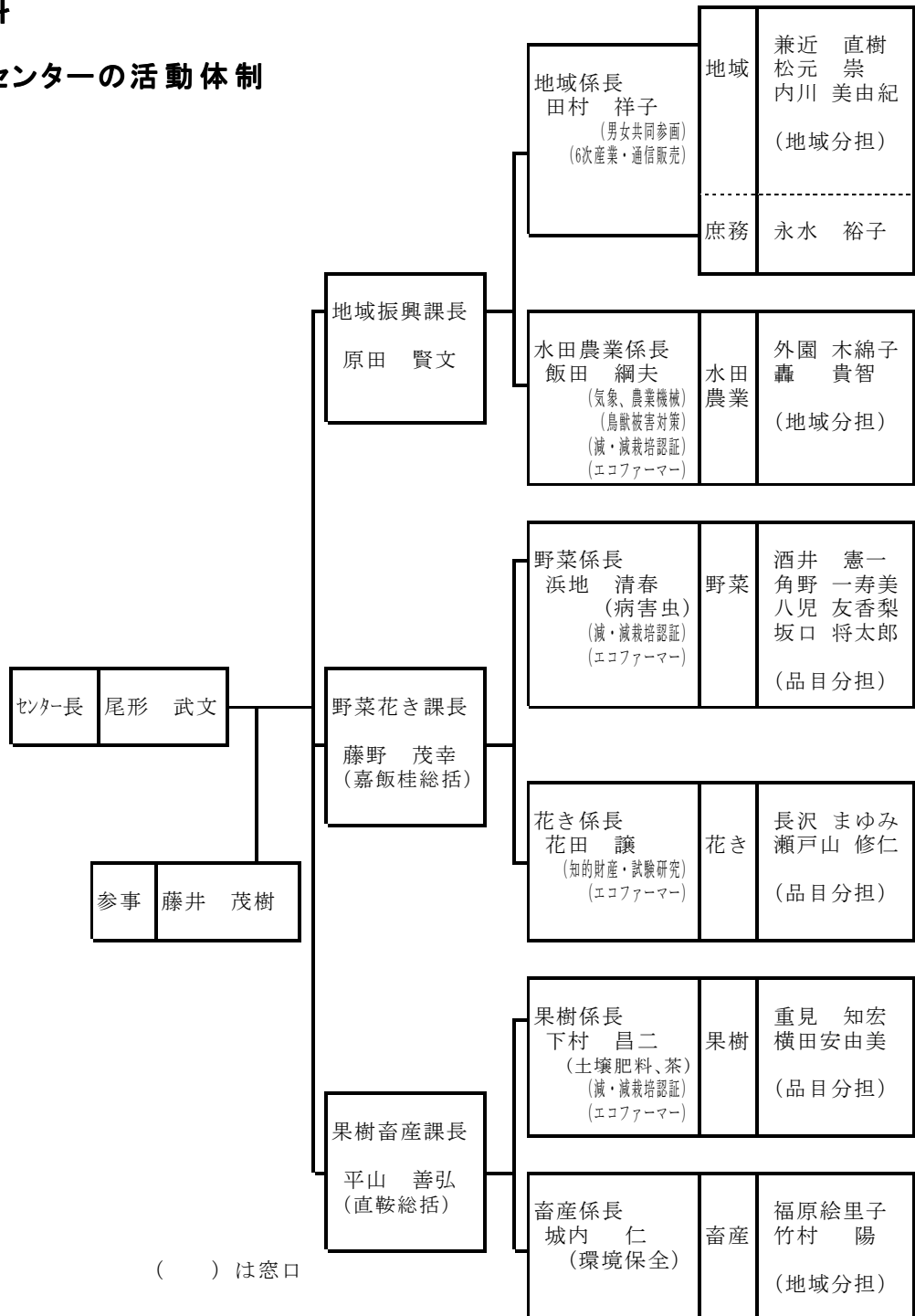
各種表彰(国・県) 一覧 (1月～12月)

表彰事業名	受賞者・組織	受賞内容	市町名
第19回農林水産まつり農 林水産賞	遠藤 典男	農産部門 名誉賞	鞍手町
	荒牧 博幸	畜産部門 名誉賞	宮若市
	横山 武城	地域集団部門 優秀賞	飯塚市
第8回ふくおか良質堆肥 コンクール	農事組合法人 穂坂牧場	大家畜の部最優秀賞 (県知事賞)	飯塚市
	大田 和弘	大家畜の部優秀賞 (畜産課長賞)	嘉麻市
第49回福岡県肉畜共進 会	武田 英文	交雑種の部 金賞	田川市
	瓜生 成人	和牛の部 銅賞	飯塚市
平成25年度福岡県花き 品評会「技術・ほ場の部 (夏秋咲きギク)」 露地部門	村瀬 嘉明	九州花き卸売市場連合会 長賞 品種「M. 0エアロ」	飯塚市
平成25年度福岡県花き 品評会「技術・ほ場の部 (夏秋咲きギク)」 施設部門	豊田 武	九州山口花き園芸連絡協 議会長賞 品種「紅帯」	嘉麻市
平成25年度福岡県花き 品評会(産物の部)	樋口 信勝	福岡県議会議長賞 品種「バルカ」	桂川町
平成25年度福岡県花き 品評会(産物の部)	樋口 智世	審査員特別賞 品種「ソネロ」	桂川町
福岡県大豆作経営改善共 進会	有光 勇	優良賞 (福岡県農業協同組合中央会 会長賞)	飯塚市
福岡県麦作共励会	株式会社 あいば農園	優良賞 (福岡製粉倶楽部会長賞)	鞍手町

3 参考資料

(1)普及指導センターの活動体制

ア 課係体制



イ 班活動の体制

(ア) プロジェクト班

園芸農業振興による嘉穂農業の活性化推進班、直鞍農産物の直販拡大推進班

(イ) センター内運営事項による分掌(推進班)

水田農業経営力強化推進班、経営体育成推進班

担い手育成推進班、情報活用推進班、安全安心な農畜産物推進班

(2)現地実証・展示ほ一覧

No.	品目	課題名(案)	結果の概要	場所
1	水稲	除草剤「サラブレッドKAI粒剤」の実用化試験	田植同時処理用(3成分)除草剤のSU抵抗性雑草に対する効果の検討。対照区以上の除草効果が認められ、普及可能と判断。	宮若市
2		「モンガリット粒剤」の稲こじ病、紋枯病に対する実用化試験	田植5日後に、3kg/10a散布。紋枯病に対しては、一定の効果が確認できた。稲こじ病については、常発地を選定したものの、本年度は稲こじ病の発生が少なく、効果の判断はできなかった。	宮若市
3		新品種「ちくし82号」の現地適応試験	高温耐性を有する極早生系統の現地適応試験。夢つくしと比較して、穂いもち病に強く、収量性は高く、食味もやや優れた。一方、稈長が長く、倒伏耐性はやや劣る。成熟期は夢つくしより4日程度遅い。	直方市
4		採種「ヒノヒカリ」の基肥施肥量の検討	基肥減肥により、収量制限効果が確認できた。ただし、精粒重歩合は、基肥減肥による向上効果が認められた。今後の栽培指導に活用予定。	宮若市
5		「元気つくし」の基肥一発施肥(LP2000、エムコート020)の検討	省力化のための緩効性肥料(基肥一発肥料)の試験。両資材とも、対照区(二回穂肥)と比較して、品質は同等であったが、収量は劣った。年次間差も含め、試験の継続・検討を行う。	宮若市
6		ケイ酸加里入り土壌改良剤の実用化試験	土壌改良資材による収量、品質の向上効果を検討した。展示区は、葉色が濃く推移したが、収量の向上効果は見られなかった。また、昨年に引き続き、玄米タンパク含有率が高くなった。ただし、土壌の可給態ケイ酸の維持効果については確認できた。	飯塚市
7		WCSにおける育苗箱全量施肥肥料の検討	施肥の省力・低コスト化のために水稲育苗箱全量施肥法を検討した。肥料コストは慣行(基肥一発肥料)より、3割程度安く、収量は同等である。育苗箱が乾きやすいので、灌水に注意が必要。	小竹町
8		「特A米」生産実証ほ	食味評価と認知度の向上によって、福岡県産米の生産拡大と販売促進を図るため、穀物検定協会が実施する米の食味ランキングに出品する取組。生産ほ場では、ケイ酸加里や有機質肥料(菜種油粕)を施用。	宮若市 飯塚市 桂川町
9		育苗期防除による「元気つくし」のいもち病対策の検討	育苗期におけるいもち病対策(イネルギー入り培土、生物農薬、抗生物質の利用)について実証を行った。慣行との差はなかった。育苗期にいもち病防除を徹底することにより、本田での発生も一定期間抑えられた。	桂川町
10		「特選米」の地帯別、栽培法別生産販売方法の検討	JAふくおか嘉穂における、「特栽米」の上を行く「特選米」の生産取組。生産ほ場では、ケイ酸加里や有機質肥料(菜種油粕)を施用。	飯塚市 桂川町
11	大豆	除草剤「ザクサ液剤」うね間処理の実用化試験	吊り下げノズルを使用した畝間除草の効果検討を行った。ノビエ、ヒロハフウリンホオズキ、ホソアオゲイトウ、スベリヒユ等の雑草に対し、十分な除草効果が認められた。	嘉麻市
12		殺虫剤「クルーザーMAXX」の実用化試験	ネキリムシ、アブラムシを対象に試験を実施した。実施ほ場において、対象病害虫の発生がなかったため、防除効果は判然としなかった。	嘉麻市
13		耕うん同時畝立ては種技術による増収効果の実証試験	一工程播種のため降雨の影響を受けにくく、適期播種が可能となることを狙い、アップカットロータリーによる耕うん同時畝立播種の増収効果を検証。収量は慣行と同等で増収効果は確認できなかった。	飯塚市
14		簡易土壌水分計を利用した水ストレス対策による増収効果試験	簡易土壌水分計により、一工程播種区と二工程播種区における土壌水分の状態を把握したもの。一定の傾向は見られなかったが、ほ場の乾燥状態の把握はできるため、灌水の目安には使用可能。	飯塚市
15		播種時期に応じた播種法の検討(部分浅耕播種、狭畦密植栽培)	梅雨時期の過湿土壌条件下でも播種が可能である部分浅耕一工程播種による早播き試験及び播種が遅れた際の生育量の確保のための狭畦密植栽培について試験。部分浅耕一工程播種は慣行より収量が高かったが、狭畦密植は乾燥害のため収量は低かった。	宮若市 鞍手町
16		新品種「ちくし豆3号」、「ちくし豆5号」の現地適応試験	「フクユタカ」より早播き適正があり、早生の県育成品種の現地適応試験。「ちくし豆3号」は収量が「フクユタカ」より高く、「ちくし豆5号」は低かった。早播き適性については梅雨明けが早く、早播きとなったが、ツルボケ等の障害はみられなかった。	嘉麻市
17		部分浅耕播種による収量向上	降雨の影響を受けにくい部分浅耕播種の導入を検討。試験区は、乾燥時期に、着莢や粒の肥大に必要な水分が土壌中から十分量供給され、収量向上効果が見られた。	嘉麻市

No.	品目	課題名(案)	結果の概要	場所
18	麦	緩効性肥料「グットIB・エムコート入複合3004T」による追肥の省力化	追肥一発肥料の現地試験。試験区は、対照区(3回追肥)と比較し、収量、タンパク質含有率ともに同等以上であった。	宮若市
19		緩効性肥料「麦名人」による追肥の省力化検討	基肥一発肥料の現地試験。対照区(分施体系)と比較し、収量、タンパク質含有率ともに、同等もしくは劣っており、肥効の安定性の点で課題が残る。価格も高く、実用性は低い。	宮若市 小竹町 鞍手町
20		ケイ酸加里肥料「ケイ酸加里プレミア34」の効果検討	ケイ酸加里の施用による小麦タンパク質含有率向上効果の検証。ケイ酸加里施用量とタンパク質含有率の間に相関関係は見られなかった。	直方市 嘉麻市
21	野菜	イチゴにおける殺菌剤「ファンベル顆粒水和剤」の実用試験	「灰色かび病」「うどんこ病」を対象に試験を実施した。対照薬剤として「トリフミン水和剤」を使用した。展示区、対照区ともに発病株の発生はみられなかったため、展示農薬の実用性は高い。	直方市
22		ブロッコリーにおける殺虫剤「フェニックス顆粒水和剤」の実用化試験	「ハスモンヨトウ」、「ハイマダラノメイガ」等チョウ目害虫を対象に試験を実施。対照薬剤として「アフーム乳剤」を使用した。展示区は対照区と比べて効果が高かった。展示農薬の実用性は高い。	飯塚市
23		ブロッコリーにおける肥料「みどり名人2号」の実用化試験	展示肥料は、基肥施用のみで追肥が必要ない肥料であるが、一般の追肥を必要とする施肥と同等の生育で追肥作業の省力が可能。但し、年内収穫の作型に限る。	嘉麻市
24		メロンにおける殺虫剤「スターマイトフロアブル」の実用化試験	「ハダニ類」を対象に試験を実施した。対照薬剤として「コロマイト水和剤」を使用した。展示区は対照区と比べて効果が高かった。展示農薬の実用性は高い。	直方市
25		ブロッコリーのべたがけ資材による寒害(霜害)防止効果検討	管内で多くみられる寒害(主に霜害による傷み)回避を目的に設置中。被覆効果(障害の有無、温度等)やコスト、作業時間(開閉、設置等)等総合的に普及性を検討する。	嘉麻市
26		ブロッコリーの耐寒性品種の選定	昨年に引き続き厳寒期の寒害(主に霜害による傷み)に強い品種の選定を行った。	嘉麻市 飯塚市 他
27	果樹	カキにおける殺菌剤「フリントフロアブル」の実用化試験	カキのたんそ病を対象に試験を行った。試験区、対照区とも発病がなく効果に差は見られなかった。葉害等の発生も無かった。	飯塚市
28		カキにおけるフジコナカイガラムシ発生予察実証ほ	性フェロモンにより雄成虫の発生状況を調査し、発生ピークから次世代幼虫発生期(防除適期)を予測する。現地での次世代幼虫発生期を調査すると、予測時期と実際の発生期はほぼ一致した。	飯塚市
29		接木ハサミを活用したカキの品種更新試験	接木ハサミは作業の安全性確保や作業時間の短縮に有効であり、活着率はナイフと差が無かった。	飯塚市
30		ブドウにおける殺菌剤「フルーツセイバー」の実用化試験	ブドウの黒とう病を対象に試験を行った。試験区、対照区とも発病がなく効果に差は見られなかった。葉害等の発生も無かった。	鞍手町
31		イチジクにおける緩効性肥料「エムコート複合NK2616T」の実用化試験	エムコート区では、対照の2回追肥区と比べて、収穫期が早まった。品質は対照と差が無く、施肥の省力化につながった。	鞍手町
32		イチジクにおけるシートマルチ設置による果実品質向上試験	TSアップシートの全面被覆により雨後の裂果の抑制と果実品質向上を目指した。果実品質は無被覆と比べて良かったが、裂果は抑え切れなかった。	嘉麻市
33	花卉	キクにおける殺虫剤「トクチオン乳剤」の実用化試験	アザミウマ類では対照農薬以上の効果があり、アブラムシ類では対照農薬同等の効果があった。薬剤による汚れ、葉害はなかった。	嘉麻市
34		トルコギキョウにおける土壌病害・殺草対策試験	夏季高温下のハウスにて畝立て後陽熱処理による殺草効果を試験した結果、雑草の発生が大幅に減少し、除草作業の大きな負担軽減につながることが実証できた。	飯塚市
35		トルコギキョウにおける高アルカリ性土壌の矯正実証ほ	高アルカリ土壌の矯正に、硫黄を使用して適正なpHにするための技術が確立できた。実験室で1規定の硫酸を用いて緩衝線を作成し、10a当たりの硫黄投入量換算を行うもの。	宮若市
36		ダリアの日没後加温(EOD)による低コスト栽培技術の実証	日没後短時間加温処理が、ダリアの生育および切り花品質に及ぼす影響を調べ、動力光熱費の削減について検証している。	嘉麻市
37	畜産	酪農における性選別精液を活用した雌子牛生産技術の実証	今年度は経産牛への使用に限定し、80頭へ授精する予定。現在までに判明している受胎率は5/25頭である。	全域
38		WCS用稲の新品種「たちすずか」の実証展示ほ	穂が極めて少ない茎葉型WCS用稲を展示栽培した。収量性は従来の食用種の約2倍で他の専用種と同等。家畜の嗜好性も良好であった。	飯塚市 嘉麻市 宮若市
39		黒毛和牛種牛の発育値の現状把握	黒毛和牛種牛生産農家における今後の技術指導上の課題を明らかにするため、基礎データ(子牛体測値)の把握を行った。	JA嘉穂

No.			
1	人工授精実証参加酪農家を募集中！！ ～経産牛における性選別精液使用時の受胎率向上を支援～	4月12日	城内
2	新規推進作物の作付始まる ～加工用トウガラシの講習会を開催～	5月 2日	浜地
3	JAふくおか嘉穂アスパラガス部会現地検討会が開催 ～新規栽培者への重点支援による産地強化～	5月 2日	酒井
4	直売所の出荷量増大・安定出荷に向けて営農講座を開催 ～品種・作型・管理見直しによる作期の延長～	5月 2日	角野
5	シャクヤクの品質向上に向けて ～採花時期の統一に向け、相互確認を実施～	5月13日	長沢
6	高品質なウメ生産は土づくりから ～JAふくおか嘉穂の梅出荷が始まる～	5月27日	重見

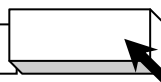
24	これからの地域農業に刺激を ～「企業による農地参入」を考える～	10月22日	原田
25	授業とは一味違う！農業現場に関心度UP！！ ～農業の魅力再発見～	11月12日	兼近
26	新しい飼料用イネの栽培特性 ～発酵粗飼料用稲(WCS)新品種「たちすずか」展示栽培結果～	11月18日	福原
27	我が家のイチジクが魅力的なスイーツに変身！ ～商品開発や6次産業化のきっかけづくりに～	12月 2日	内川
28	良質たい肥あります！！ ～第8回ふくおか良質たい肥コンクールで管内生産者受賞～	12月 9日	福原
29	創造力と実践力を持った農業青年の育成に向けて ～平成25年度筑豊地区農業青年等合同発表大会を開催～	12月11日	藤井
30	キーワードは「命」。発想の転換で経営を発展させよう！ ～「水田農業個別大規模経営者交流研修大会」開催～	12月19日	外園
31	カキのフジコナカイガラムシの徹底防除に向けて ～フェロモントラップを活用した防除適期の指導を実施～	12月20日	重見
32	次作に向けて栽培ポイントを再確認 ～JA直鞍夏秋ナス部会が生産販売反省会を開催～	1月 7日	坂口
33	地域農業をけん引する筑豊地区指導農業士 ～法人経営や6次産業化への取組みを紹介～	1月31日	田村
34	楽しみながら、やる気アップのセミナーの開催 ～自慢の農産物、加工物をPRしよう！～	2月 7日	田村
35	園芸品目の新規導入で地域農業を活性化 ～嘉穂地区限定 新規品目導入説明会を開催～	2月18日	藤野
36	平成25年度集落営農組織交流研修大会を開催 ～農業法人を核とした地域の活性化～	2月24日	飯田
37	女性の視点を生かしたキクの販売力向上へ ～筑豊花き生産者連絡協議会キク研究会女性研修会開催～	2月26日	花田
38	直鞍地域の農産物販売力向上を目指して ～野菜の出荷量増加・安定生産に向けて講習会を開催～	2月26日	平山

飯塚普及指導センターのホームページがリニューアルしました！

上記の「現地活動情報」も詳しくはホームページに掲載していますので、ぜひご覧ください。



飯塚普及指導センター



HP: <http://www.pref.fukuoka.lg.jp/d05/iiduka.html>

スマートフォンでは裏表紙のQRコードからもご覧になれます。



(4)普及指導員調査研究実施一覧

No.	課 題 名	部 門	担 当 者
1	青年就農給付金開始型の活用実態と課題	地域	田村 祥子 ○兼近 直樹 松元 崇 内川 美由紀
2	大豆の収量向上のための新たな栽培技術の導入・確立	水田農業	○飯田 綱夫 外園 木綿子
3	ブロッコリーの花蕾腐敗病の発生状況の実態調査と対策	野菜	浜地 清春
4	イチゴ栽培におけるハウス内環境の実態調査	野菜	角野 一寿美
5	冷蔵処理を行ったイチゴ親株への不織布被覆が、ランナー発生及び苗質へ及ぼす影響について	野菜	八児 友香梨
6	トルコギキョウにおけるアルカリ土壌の矯正	花き	花田 譲
7	畝立後の陽熱消毒による殺草効果の検証	花き	長沢 まゆみ
8	ナシ生育診断による農家の実態把握	果樹	下村 昌二
9	イチジク「とよみつひめ」における成熟異常果軽減のための樹勢調節技術の検討	果樹	重見 知宏 ○横田 安由美
10	稲発酵粗飼料(WCS)の新品種「たちすずか」の現地普及	畜産	城内 仁 ○福原 絵里子 竹村 陽

(○印は主担当)



周辺地図



庁舎への交通アクセス

車

八木山バイパス終点より約 1.2km
「若菜小学校入り口」交差点より約 750m

JR

福北ゆたか線飯塚駅下車
タクシー約 10分

西鉄バス

穂波バス停より徒歩約 10分
「若菜小学校入り口」交差点より約 500m



ホームページはこちらから

文書番号			
分類番号	所属コード	登録年度	登録番号
PA	4703419	25	0002

福岡県飯塚農林事務所飯塚普及指導センター

〒820-0089 福岡県飯塚市小正319-1

TEL:(0948)23-4154

FAX:(0948)29-4866

E-mail:iizuka-dlc@pref.fukuoka.lg.jp

HP : <http://www.pref.fukuoka.lg.jp/d05/iiduka.html>